

社会福祉法人熊本県視覚障がい者福祉協会
平成30年度 熊本県点字図書館事業実績報告書

熊本県における、視覚障がい者の情報提供施設としての点字図書館に期待されるものは大きく、その果たす役割も重要視されている。マラケシュ条約の批准や、読書バリアフリー法など、情報保障と地域格差が無いよう利用者への読書環境整備と録音再生機の説明会の開催や、スマートサイトの活用に、多くの眼科医等機関や入所施設からも問合せがあり、相談者へ、読書が出来る喜びを啓発し利用者の拡大に努めた。

また、今年度も「利用者の希望の声が多い情報端末機「スマートフォン・iPhone」や「らくらくスマートフォン」の視覚障害者向けの操作方法について「パソコンボランティア熊本」の協力により開催した。

弱視者（ロービジョン）の利用者に対しては、『拡大読書器』の貸出を行い、今年度新たな「視覚障害者用ポータブルレコーダープレクストーク」が機種変更（PTR-3）プレクストークの普及び給付申請を勧め情報入手が出来る様に務めた。今年度は以下の行事・事業を行った。

1、 蔵書の製作と充実に努めた。（別紙資料1， 2， 3参照）

(1) 点字図書 今年度 212タイトル 664冊

(昨年度 198タイトル703冊)が増加した。

内訳 厚生労働省委託図書、64タイトル(昨年度 37)

自館点訳図書 148タイトル(昨年度 161)

寄贈図書 0タイトル(昨年度 0)

累計蔵書数は、 9,607 (昨年度 9,412) タイトル
31,542 (昨年度30,951) 冊である。

(2) 録音図書（カセットテープ）

累計蔵書数は、 8,684タイトル、
48,884巻である。

(3) デイジー図書（CD）の製作では、367タイトルが蔵書された。
(昨年度 381タイトル)

内訳 厚生労働省 44タイトル(昨年度 41)

自館音訳図書 313タイトル(昨年度318)

寄贈図書 10タイトル(昨年度22)

(マンガデイジー20タイトル、シネマデイジー3タイトル含む)
累計蔵書数は、 8,554タイトル(昨年度8,187)である。

点訳・録音増加図書の殆どが、点訳・音訳ボランティアの協力によって製作、校正、編集されている。

今年度サピエ図書館に登録した点字図書データは、144タイトル
録音図書は、220タイトルであった。

(4) 点字雑誌については、季刊1種(らしんばん)。

月刊情報雑誌 3種(点字ジャーナル・ライフ&ライフ・信仰)。

週刊雑誌1種(点字毎日)で読者のニーズに対応した。

(5) 録音雑誌については、月刊情報雑誌他、週刊雑誌、年間数回発行されるものを含めて9種の音声情報資料の収集を図り、利用者の要望に対応した。主なものを挙げると、(やまゆり・ダンスファン・暮らしの手帖・週刊現代・医道の日本・九視情協、熊点最新新刊図書案内・ラジオ深夜便)などで利用者のニーズに対応した。

デージー雑誌では、CD29種の貸出しがなされた。(にってんデジーマガジン・医道の日本・選択・フォーサイト・文芸春秋・毎日ライフ・NHKきょうの健康・爽快・週刊現代・趣味の園芸・俳壇・流・新潮・世界等)。雑誌の種類も増えている。

カセットテープは、2タイトル(糖尿病ライフさかえ・暮らしの手帖)を貸し出した。

2, 貸出業務の拡大と充実を図った。(別紙資料4, 5, 6, 7参照)

(1) 点字図書の年間延べ貸し出し数は、109,059冊

(昨年度57,769冊)

録音図書(カセットテープ)の年間延べ貸し出し数は、4,763巻

(昨年度7,097巻)

CD図書の延べ貸し出し数42,971枚

(昨年度39,585枚)

(2) 実利用者数は点字図書152名。録音図書テープ図書12名。

デージー図書433名であった。

(3) 熊本県立盲学校に、点字児童図書を長期に貸出し、児童生徒の利用の拡大を図っている。

(4) 全国相互貸借による貸出しを行なった。

具体的には、「サピエ図書館」の活用により検索、貸出しを実施した。

① 利用者自身が、より早く情報収集できるようこのシステムを活用、参加することを啓発し、QOLが高まるように努めた。

② 図書館と利用者とを結ぶ、メーリングリストを有効に活用し、情報の収集と発信を可能とする事で、社会参加の一助となるよう努め

た。

- ③ パソコンボランティア熊本の協力を得て、パソコン利用者の増員へ努めた。新規申込者5名であった。
- (5) 利用拡大活動を推進し、情報機器説明会を各視覚障害者団体と連携を図り開催し、情報収集に貢献した。水俣市、人吉・球磨で実施した。
- (6) 新規の利用登録者を増やすため、各関係機関との連携を強化し、利用者の拡大を図った。新規登録者数41名であった。
- (7) 総合的には、郷土色豊かな点訳図書、録音図書を製作して、地方図書館としての特色を生かすよう努めた。点字図書・録音図書共に3タイトルであった。
- (8) 英語点字表記法の改正においては、利用者への広報に務め資料の提供を行い、奉仕員は研修会を行なった。
- (9) 煩雑する図書貸出を迅速に行うために、年間4回の図書整理を行った。

3. 閲覧状況（別紙資料6参照）

閲覧については、閲覧室が整備されて以来、利用者にとって、学習（読書、訓練など）、研修、憩いの場所として有意義に活用された。諸行事等の開催により閲覧者の増加を図っている。今年度は対面読書の利用が延87名であった。

1年間の延べ閲覧者は次のとおりである。

点字図書 725人（昨年度655人）

2,320冊（昨年度2,096冊）

録音図書 1,057人（昨年度885人）

1,902枚（昨年度1,593枚）

中途失明者点字教室を県身障者福祉センターで開催しているため閲覧が増加した。

閲覧室のパソコンにて電子書籍やブレイルメモを利用しての閲覧を介し、サピエ図書館利用へと繋がっている他、スマートフォンの問い合わせも今年度は多かった。OSの変更でのパソコン操作やソフトまた、スマートフォンの個人対応は約13名。電話でのレファレンスサービスは月約30件、年間約360件の対応を行った。

4. 活発な広報活動を行い利用の拡大を図った

- (1) 「熊点だより」を、熊本県広報誌に寄稿し、新刊図書紹介や、団体

情報等を掲載し、周知徹底に努めた。

- (2) 図書目録（点字版・墨字版・音声版）を製作し、利用者の要望に対応した。
- (3) 県内の、各視覚障がい者団体等との連絡、協調を図り、各種会合や諸行事等へ出席して、広報に努める他、利用者の要望を聞き利用の拡大を図った。（天草市・水俣市・人吉市）

5. ボランティアの育成と活動の促進を図った

- (1) 現在活動中のボランティアを対象に、点字図書館主催で、点字、朗読（音訳）研修会を、年19回開催し、正確な図書製作のための技術と資質の向上を図った。
- (2) ボランティア団体（グループ）の育成および助成を図った。
「熊本県点訳音訳友の会」他、県内各地域のボランティア団体等の諸行事に参加し、日頃の活動に感謝するとともに育成と活動の促進を図った。（天草市・人吉市・八代市）
- (3) 最新の点字編集システム及びBESXのソフトウェアの普及に努めた。
- (4) 音訳研修会において各デジを製作する上で協力できるボランティアの研修会を行った。シネマデジ7名、研修回数3回、制作数は2タイトル。漫画デジ7名、研修回数4回を開催し制作数は、17タイトルを製作した。テキストデジ5名、研修回数1回を行った。制作数は19タイトルであった。テキストデジは、製作実践、点字変換と点訳にも活用できるよう努めた。
また、点訳図書・録音図書校正員を、56名委嘱して、年1回の研修会を開催し、校正技術の向上を図るとともに、正確な図書製作に協力を得ている。点字校正員29名。触読校正者4名。録音校正員27名である。
- (5) 全視情協が管理する「サピエ図書館」の、図書製作支援（管理、共同制作、読み方調べ情報データベースシステム）を利用する。また、地域・生活情報（福祉情報や新聞記事、買い物情報など）の製作作業に協力し、熊本のグルメ・特産物の紹介をした。
- (6) 意欲あるボランティアに対し、シネマデジ・テキストデジ・マンガデジへの取組として研修会を開催し、奉仕員の中から養成した。
- (7) 各市町村や、社会福祉協議会からの広報誌他、点字印刷やデジ製作・取組等の相談を受ける中、指導員を派遣し、各地域での視

覚障がい者意思疎通支援者として養成に協力した。八代市・山鹿市・合志市。

- (8) 第32回九視情協大会ボランティア研修会（大分市）参加を誘致した。参加者は、17名であった。

6、点字印刷業務

- (1) 熊本県広報誌「県からのたより」を年6回、「熊本市政だより」を年12回、「八代市広報」を年12回、「わたしたちの福祉」を年2回、などの点字印刷業務を受託し、製版、印刷、発送を行った。熊本市議会だより（いちょう）年4回製作発送した。「熊点だより」年6回制作発送した。
- (2) 公共団体、民間団体、個人等の依頼により、点字印刷その他視覚障害者に必要と思われる資料の製作、印刷、発送に努めた。特に行政情報としては、「公務員受験広報」、各種選挙広報等の製作を受託し、製作、印刷、発送に努めた。
- (3) 図書目録、各種機関誌他、関係資料の製作、印刷、発送に努めた。

7、録音製作業務

- (1) 録音図書の自館製作については、音訳ボランティアの協力を得て利用者の希望図書を優先して製作した。
- (2) 職員研修会等へ参加し、ボランティア対応に努め、時代のニーズに対応すべき技術の向上と、製作への研修を図った。具体的には、CD図書への編集作業、直接パソコンへの録音、CD図書の製作を図っている。
- (3) 熊本県広報誌録音版、「県からのたより」を年6回、熊本市広報「声の市政だより」を年12、「宇土市広報」を年12回、「熊点だより、録音版」を年6回、製作、複写、発送している。熊本市議会だより年4回発送した。この他、山鹿市、合志市にも広報作成のための研修会に指導員の派遣を行った。また、天草市音訳グループエコーの会より問い合わせがあった。
- (4) 地域福祉が叫ばれる中、地域で活動しているボランティアグループの協力を得て、広報製作や利用者のデジタル化への推進を広め、視覚障がい者の現状を踏まえ、各種学校・社協での取り組みに、視覚障がい者の協力者及び点訳・音訳奉仕員の派遣を行った。益城町・菊地市・荒尾市・玉名市・山鹿市・合志市・八代市・人吉市。
- (5) 公共団体、民間団体、個人等の依頼による音声情報製作を受託し、

又、視覚障害者に必要と思われる資料の製作、複写に努めた。
音声版への対応は、利用者の要望も多く確実な実績があがった。
(6) その他、月刊、週刊テープ雑誌等の製作、複写、発送に努めた。

8, 関係資料の収集、調査

全国図書目録、他館の図書館だより、「日本の点字図書館」等の資料を収集、調査、研究し図書館サービスの充実に努めた。

又、寄贈された点字書や録音版など利用者に紹介し、貸出を行った。

- (1) 視覚障害者に必要と思われる、点字、録音資料を購入、又は貸借により利用者の要望に対応した。特に、郷土色豊かな資料等の対応に努めた。
- (2) 障がいのある方をサポートする方を対象に、支援に役立てていただくことを目的とし同様の講座としても行なった。年12回。
- (3) 利用者からの要望の多い、タブレットやスマートフォンの使用法を調査研究し困難な方への対応に努めた。

9, 盲人用具の斡旋

- (1) 白杖、点字器具一式(点字板、点字用紙、ルーズリーフなど)、音声時計、音声体重計、拡大読書機、ポータブルレコーダー、ブレイルメモ他、盲人用日常生活用具をあっ旋し、利用者の要望に対応し、常に新製品情報を提供した。
特に、6月機能アップして発売されるプレクストークPTR3の普及促進に努めた。
- (2) 全国基準で定める補装具での利用者に合った用具を推進し、日常生活用具では、各市町村での地域推進事業の地域格差を無くすよう、盲人用具研修会を9月に開催した。

10, 職員研修会の開催、及び参加

- (1) 必要に応じて随時、施設内職員研修会を開催し、職員間の連携を図るとともに、視覚障害者への更生援護の専門技術の向上と、盲人用具や情報機器業務の円滑、充実に努めた。
- (2) 九視情協主催による、研修会等への参加。
4月 福岡県, 九視情協館長会議(理事会)。(篠原)。
9月13日 大分市, 第32回九視情協大会、館長会議, 職員研修会。
(篠原、宮本、石坂、窪井)。
14日 大分市, 九視情協館長会議(理事会)。(篠原)

同 職員研修会点訳部会（石坂）

職員研修会音訳部会（宮本）

（３）日盲社協、全視情協主催による職員研修会への参加

6月 日盲社協情報サービス運営委員会・日盲社協施設大会下関
（篠原）

10月25・26日 岐阜市にて、第44回全視情協大会理事会・職員
全体研修及び各分科会に参加した。（篠原・宮本・石坂）

H31年

1月 点字担当職員研修会 東京（石坂）

2月 日盲社協情報化対応支援者講習会 川崎市（窪井）。

1 1, 関係諸団体との連絡協調

日盲社協、全視情協、九視情協等、関係諸団体との連絡協調を図り、研修会等に可能な限り参加し、情報交換他、相互交流を図ることにより、日常業務の遂行と相互貸借業務等の推進を図った。

- (1) 盲ろう者に対しては、聴覚障害者情報提供センターと連携を保った。
- (2) 県内の相談支援事業所に、視覚障がい者の生活等の相談に対応した。

1 2, 読み代行、代筆サービス事業の実施

- (1) 利用者からの依頼による、普通文字情報をファクスで受信。
音声化して伝えるサービスを実施し、利用者の要望に対応した。
また、代筆サービスも行なった。
- (2) 地元情報及び、身近な地域生活情報の提供を含め、代読サービスを実施した。

1 3, その他の事業

- (1) ホームページにより、啓発活動及び情報開示に努めた。また、必要に応じて個別に、パソコン講座と情報機器講座を団体・個別と随時開催した。
- (2) 「サピエ図書館」へ参加し、パソコン通信により、点字データの収集を図るとともに、印刷、製作、提供の充実を図った。又、利用者の個人加入の広報に努め前年度・今年度合せて新規加入者 32 名であった。現在 187 名が加入し、活用している。
- (3) 「ふれあい感謝のつどい 2018」を 10 月に開催した。会場利用の関係で初めて祝日に開催したが、参加者 195 名。ボランティア 85 名、利用者等 110 名で昨年より多くの参加があった。情報機

- 器や盲人用具の展示会やマッサージコーナー、ゲーム・アトラクションを行いグループ毎に交流を深め一日を過ごした。
- (4) 「読み代行サービス」、「熊日新聞拾い読み」事業を実施した。ファックスを利用し、電話で読みあげるサービスをし、10件の依頼があった。
 - (5) 音訳グループ『さわらび』の協力を得て、図書館サービスの充実を図った。対面読書サービスを実施した。利用者延87名各2時間計約180時間。また、今年度より熊本県立図書館並びに熊本市立図書館でも開催されるよう相談し、県立図書館で3回実施した。今後も公立図書館と連携を取り障がい者サービスの発展としたい。
 - (6) 日本図書館協会・障がいサービス委員会委員長を招き、職員研修会を行った。
 - (7) 点訳・音訳ボランティアの協力を得て、プライベートサービスを実施し、利用者個人の希望により、点訳・録音図書を製作し要望に対応した。点字図書14タイトル43冊5,046頁。録音図書デジター(CD)147タイトル751:06分であった。テキスト化への依頼19タイトル。
 - (8) 新規登録者の中途失明者及び家族に情報提供と、意見交換会を開催した。18名の参加があり、今後も開催してほしいとの要望があった。
 - (9) 施設見学や、点字体験学習など小中校あわせて4校に出向き実施した。11月に福祉センターと地域交流会として、社会へ点字制定記念日の啓発活動及び点字体験コーナーを開催した。
 - (10) 平成29年に発足した熊本県点字図書館等をネットワークとする「みるくまネット」の研修を、県身障者福祉センターで行い、点字図書館の設立経緯や概要の説明を行った。眼科医、視能訓練士、盲学校から参加があった。
 - (11) 新規利用者の拡大を図るとともに、社会への啓発活動及び支援活動として次の事業などに参加した。
 - ① ホームページを活用し新刊点字、録音図書の紹介をはじめ、催事情報、ボランティア活動、募集情報等を掲載した。
 - ② 第4回ロービジョンを考える会に参加し、眼科医等との連携を図った。(篠原・石坂)
 - ③ 県視協団体が、各支部で開催する歩こう会に参加し、図書館啓発活動を行った。(玉名市)